提出締め切り: 帰国後１ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度　JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名　　二ツ山　達朗　　平成 21　　年度（入学・編入）

1.研究課題：

１）チュニジアにおける宗教グッズの販売、購入、使用の実態調査

２）チュニジアにおけるナツメヤシとオリーブの収穫期における農作業の調査

2. 渡航先：

現地滞在期間：平成　24　年　11　月　23　日　～　25　年　2　月　19　日　（　89　日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請者は民衆のイスラームの信仰を理解する際に、日常的に存在する物理的なモノに着目し、それらと彼らの信仰の関係性を理解することを研究課題としてきた。具体的にはチュニジアを事例に、各商店で販売・使用されている宗教グッズと、クルアーンなどに記載されている農産物に注視し、それらがどのように扱われているかを調査することを目的とした。

3 ヶ月の調査により得られた成果は主に次の 3 点である。①「宗教グッズ」の販売所、使用現場においてそれらがどのように配置されているかをデータにまとめた。②農作業の参与観察（オリーブの収穫・精油作業、ナツメヤシの収穫作業・売買）を行うことで、住民たちがそれらをどのように扱っているかを民族誌的に記述した。③役所における行政資料から、チュニジア国内の各地域の農地、農産物、農業従事者についての概要をまとめた。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

上記のような研究課題のなかでも、農作物や植物と現地住民との関係性を理解することは、1 年の中でも季節的な変化をともなう事柄であり、通時的な観点からの調査が必要となる。本調査においては、主な農作物の農繁期（10 月～2 月頃）に焦点をあてた調査を行ったが、農閑期も含めたその他の季節とどのような関わりがあるかという課題が残る。申請者は今後も 1 年以上の期間を通じた参与観察を行いながら民族誌的な考察を行うことを予定している。次年度はそのための長期調査を行う予定であり、本プログラムのような渡航を支援するプログラムがあれば、ぜひ活用したいと考えている。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムによる 3 ヶ月の現地調査から、自身の研究課題の核となるデータを収集することができた。現地の一次資料をもとに議論を発展させる地域研究にとって、現地調査が必要不可欠となるために、このようなプログラムにより支援を受けられることは、非常に有難い事であると感じている。今後も上記のような現地調査を必要としているため、長期的に渡航できるプログラムがあれば有難い次第である。

＊1 ページを超えないようにしてください。

＊プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。

署名